

129 昭和時代 敗戦後の経済政策

敗戦後の経済状況

- ・工業生産額は戦前の三分の一に。
- ・将兵の 復員 や外地住民の 引揚げ
台湾や朝鮮に住んでいた日本国民
- ・1945 年は記録的な凶作(労働力不足のため)
で食料不足深刻。戦後も配給制継続。
- ・配給も米の代わりに 代用食。
- ・ 戦災孤児 沢田みき

戦争で保護者を失い、たった一人で路上で生きていくことになった戦災孤児が12万人。焼け残った蒲団の切れはしを敷き、冷たい通路の上で寝た。↓駅で眠る戦災孤児。



- ・ 闇市 (法令違反)
公定価格をはるかにこえる高値で買えます。阿部信行内閣の価格等統制令が戦後に物価統制令となりましたので、物価統制令違反となります。
- ・ 買い出し (食料統制令違反行為)
都市民衆 が農村に買い出しに行く。



幣原重喜郎

1946.2 金融緊急措置令 (幣原内閣)
旧円の流通を禁止し、預金の新円による引き出し制限(預金封鎖)を行った。
(結果)インフレは終息したが、もの不足がインフレの根本原因なので効果は一時的なものに終わった。



吉田茂

1946.12 傾斜生産方式 (吉田・片芦内閣)
基幹産業(石炭・鉄鋼)に資金・資材を重点配分する生産回復政策。
戦時中の統制経済の司令塔である 企画院 出身の経済学者の 有沢広巳 が発案。
(結果)生産は回復したが、復興金融金庫を通して資金供給したので再びインフレに。

1948.12 経済安定九原則 (第二次吉田内閣)

冷戦激化の中で、GHQが日本を経済強国にするために第二次吉田内閣に指令。

1949.2 ドッジライン 実行

経済安定九原則の実施のために、GHQはアメリカのデトロイト銀行のジョセフ・ドッジを呼んで実行させました。ドッジは「日本の現状は竹馬経済だ。アメリカの援助と日本政府の補助金で持っている。」

全く赤字国債発行を許さない均衡予算。

1ドル360円の単一為替レート 設定。

日本に有利な円安固定相場を設定し、日本経済が将来アメリカ市場への輸出で再建する道を開きました。

ドッジの指示による緊縮財政(赤字国債発行を許さない均衡予算)により物価の下落と失業者の増大を招きました。



デトロイト銀行のドッジと握手する池田勇人大蔵大臣(左)

三大労働怪事件(下三川事件)

大量の失業者が背景

国鉄職員を大量リストラしていた下

1949.7 下山事件 山貞則国鉄総裁が死体となって発見

1949.7 三鷹事件 中央線三鷹駅で無人電車暴走6人死亡

1949.8 松川事件 福島県松川駅で列車転覆3人死亡

→警察は日本共産党員のしわざと発表(無罪)

1948.8 シャープ勧告

不況で売買不振でまったく間接税収がないので、日本の税制について取れるところからとる所得税中心主義を勧告。
竹下内閣の消費税導入まで所得税中心の税制が続きました。



来日したシャープ教授と握手する池田勇人大蔵大臣(右)

緊急車に乗っていく！

金融緊急措置令→傾斜生産方式→経済安定九原則の順

ドイツ車！

ドッジ来日→単一為替レート→シャープ勧告

シャープにしとくぜい！

シャープ勧告 所得税中心主義

消費税は毒薬！ 1989 年(竹下内閣)